

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成24年11月23日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前の花畑や玄関周りに、花を絶やさないようにし、入居者様やご家族はもとより近所の方々に楽しんで頂けるようにしています。
定期的なボランティアの芸能を楽しんだり、棟続きのパウロ病院での行事にも積極的に参加しています。町内の方々も一緒に楽しんでいただいています。
医療面が充実しているので、利用者様やご家族の安心につながっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の住宅地にあり、母体病院や関連の小規模多機能事業所、デイサービスと隣接している3階建て3ユニットのグループホームである。周囲には小川や森があり、自然環境に恵まれている。建物は共用空間が広く造られ、居間や食堂の他にもソファやテーブルを置いたくつろげる空間を備えている。また、中庭のテラス部分から明かりが入る開放的な作りとなっている。病院との連結通路や非常口、防火扉など安全面でも優れており、トイレや浴室、洗面所なども使いやすく整えられている。医療法人が母体で病院に隣接しているため、医療面の支援体制が整っており、家族の安心にもつながっている。職員同士の連携も良く、活発に意見が出され、運営に活かされている。また、職員が利用者に親しみをもって話しかけ、利用者も明るく過ごしている。入浴支援の面でも、利用者の希望に沿って夕方の遅い時間まで職員勤務を調整して対応している。外出支援の面では、日常的な周遊への散歩のほか、花見や紅葉狩りなどのユニット毎の年間行事、野球観戦やカラオケなどの個々の希望に沿った個別の外出を行い、多様な支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、管理者と職員はその理念を共有し日々のケアの実践に繋げています。	基本理念の他に毎年独自で作り上げる目標があり、その中で「地域から信頼される施設」という目標を中心に掲げている。職員は理念や目標をカンファレンスで確認し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で地域の現状を知り、あいさつや行事等の中で交流するように努力しています。	町内会には参加できていないが、母体病院と合同の夏祭りや花火大会に地域の方が参加し、交流している。また、隣接する小規模多機能事業所との交流もある。月2回、傾聴ボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々の見学会を行い、認知症の人の理解や支援の方法を理解してもらうよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をカンファレンスで報告し、サービス向上に活かすよう努めています。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族などの参加を得て、行事や防災などを討議しているが、計画的なテーマの設定、外部評価の話し合い、議事録の送付などの点で十分といえない。	テーマの計画的な設定や、外部評価結果の話し合い、家族への議事録の送付と参加の呼びかけなど、更なる取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への届け出には直接市役所を訪ね、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加を得ており、ホーム長はキャラバンメイトのメンバーとしても登録している。各種の届け出書類提出に市役所に出向き、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の施錠と転落防止の為の非常階段口のドアの施錠以外は常にオープンにしています。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示した身体拘束マニュアルを整備しているが、勉強会などの取り組みは十分といえない。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に出入りすることができる。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為について全職員が正しく理解するよう、マニュアルに沿った勉強会や事例検討会などの定期的な開催を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修を受けたものがカンファレンスで発表し学んでいます。また利用者の日々の言動や身体チェックを行っています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修があれば参加し、理解をするように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約に際しては利用者や家族の理解や納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で利用者や家族の代表から意見を受けています。	家族が来訪した際はやりとりを詳しく記録し、職員間で共有している。一方、家族アンケートを予定していたが、未実施である。家族に様子を伝えるホームだよりの発行も、ユニットによってはまだ定期的に作成されていない。	アンケートを行い、意見を運営に反映させる意向なので、その取り組みに期待したい。また、ホーム便りについても、職員の負担を軽減しながら、定期的な発行を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議で出された意見や提案を聞き、反映させています。	毎月2回のカンファレンス兼ユニット会議があり、職員が活発に意見交換している。年に2度、目標管理のための個人面談も行われている。また、職員は行事や園芸、お便りづくりなどの役割を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムを導入し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保するよう努めている。職員は働きながら、介護福祉士の資格を取得する人が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホーム管理者会議、ケアマネジャーの会議、勉強会に参加しネットワーク作りの取り組みをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必ずホームの見学をしていただき、要望を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話を十分に聞き、質問等には丁寧に答えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望をよく聞き、必要としている支援やサービス利用の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人のできない事や困っていることは援助し、時には教えてもらいながらケアをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連携を取り本人の喜びや望みを叶えるような関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意見を尊重し、馴染みの人の訪問や外出をしていただき関係が途切れないよう支援しています。	利用者の知人や友人の来訪を歓迎しており、電話や手紙のやり取りも支援している。利用者と職員が個別に、喫茶店や買い物、カラオケ店、野球観戦などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が楽しく生活できるように席の配置を工夫したりスムーズに会話ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や施設へのお見舞いや訪問を行い、時には相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話せる方からは希望を聞き困難な場合には家族からの情報や日々のアセスメントをもとに意向の把握に努めています。	意思疎通が難しい場合も、表情やしぐさ、過去の経験から意向を把握している。個々にセンター方式のアセスメントシートを作成し、新たに得られた情報も追記して情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を参考にするとともに、センター方式のアセスメントを行い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をもとに、アセスメントしながら現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人が生活していた関係者と話し合い、その中から出た意見やアイデアを反映し、スタッフ全員でプラン作成をしています。	介護計画は3か月毎に見直し作成しており、状況に応じて都度の見直しも行っている。カンファレンスで職員が意見交換して評価を行い、次の介護計画が作成されている。日々の記録も介護計画の目標に沿って記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は細かく記入し、スタッフ全員が利用者の情報について共有しており、それをプラン作成やケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人でサービスを希望する方には外部からの定期的なサービスを受けられるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報誌の活用やボランティアの協力等本人が安全で豊かに生活を楽しむことが出来るよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を大切に、適切な医療を得られるよう支援しています。	ほとんどの利用者が隣接する母体病院に2階の通路から通院している。他のかかりつけ医は家族対応しているが必要に応じて事業所で通院支援している。受診記録を作成し、家族や職員間で情報を共有している。	

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師であり、受診に付き添っています。職員は日常的に利用者の健康状態を観察報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者との情報交換をし、相談に務めている。入院先の病院等のカンファレンスに参加又は訪問をし、利用者や家族が安心できる体制を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に事業所のできる事や支援の状態を説明しています。入所後もケアプラン説明時や訪問時にご家族と話し合い、本人の意思が尊重できる方針を共有し、関係者ととも支援に取り組んでいます。	利用開始時に「医療連携体制に関する指針」を説明し同意書を取り入れしている。事業所での看取りは難しいが母体病院が中心となり支援する旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに急変時にはどう動けばよいかを常にシミュレーションし、業務にあたっています。職員は応急手当や初期対応の研修を受け、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、利用者にも参加してもらい実行しています。運営推進会議の中で、地域との協力体制を築いています。	年2回、消防の協力を得て昼夜を想定した避難訓練を実施しており、隣接する母体病院や小規模多機能事業所と災害時に協力する体制を整えている。職員の救急救命訓練も定期的に行われ、水や食料などの備蓄品も整っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの認知状態をスタッフが共有し、トイレ誘導や入浴時には特に注意をし、言葉かけや対応をしています。	名前の呼び方を「さん」付けとし、敬意を込めて対応している。母体病院の研修で言葉遣いや対応を学び、気になる時には注意している。個人情報などの書類はスタッフルームに保管しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を日頃から聞き取るようにし、選択できる事を用意し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの楽しみや希望を理解し、ペースに合わせて1日を過ごせるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や身だしなみの情報を知り、その人らしさが出るよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事等には一人ひとりの好みのメニューを入れるようにしています。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。	食材委託業者からの献立を変更し、各ユニットで誕生日や行事には好みの特別メニューを提供している。利用者は野菜の皮むき、もやしの根とり、味見、お茶入れなどの準備や後片付けに参加し、職員も同じ食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューはバランスを考えながら作っています。一人ひとりの食事量、水分量は常にチェックを行い、一定量確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、特変があればすぐに歯科受診しています。定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて布パンツ・紙パンツ・パットなどに使い分けており、排泄チェック表の記録を行い、パターンを把握し、自立に向けた支援をしています。	全員の排泄をチェックし、個人記録に記載してパターンを把握している。自然な流れでトイレに誘導し、周囲に分からないように配慮している。パットなどは昼と夜に使い分け、個人の状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維食物の摂取を積極的に行い、散歩や体操等の運動をしています。排便チェックを行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に2回は必ず入浴できるよう調節していますが、本人の希望がある時は、入浴できるようにしています。時には夕方の入浴を設定することもあります。	毎日入浴が可能で、週2回以上を目安に午後の時間帯に入浴を実施している。また生活習慣から夕方に入る利用者もいる。入浴を嫌がる場合は対応の工夫や信頼関係の下で行っている。体力の低下がある時は、足浴、清拭、ドライシャンプーで清潔や爽快感が得られるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内に温度・湿度の調節や寝具の調節を行い、安眠できるようにしています。日中はそれぞれ気に入った場所で休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの費用している薬の内容が書かれている用紙があり、スタッフは把握しています。症状の変化の観察に注意をはらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントから一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等その日の希望に沿って出かけるよう支援に努めています。また、本人の希望を把握し、家族や友人の協力を得て外出や外泊をしています。1階は札幌ドーム・2階は家族との旅行・3階は友人との旅行等を行っています。	隣接している同一法人事業所中庭の花を見たり、母体病院の売店、喫茶店で楽しみ、車椅子使用の人も外気に触れている。ユニット毎に外食や樹芸センターへの花見、開拓の村への紅葉狩りなどに出かけている。札幌ドームでの野球観戦、カラオケ店、買い物など個別の希望にも応じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、お金を所持したり、使えるようにしています。買い物希望時は同行し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。自分で電話ができない人には介助しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、安心と安全に注意し、居心地の良い場所作りの工夫をしています。季節の花や行事の写真等を飾り、楽しんでもらっています。	共用空間の一角にトイレ、洗面所、浴室が集合しており、機能的で移動も容易である。吹き抜けの中央テラスから陽光が入り、開放感がある。作品、絵画、行事の写真、季節の飾りつけなどが玄関、居間、共用空間のいたる所に飾ってある。ソファ付近に縫いぐるみや観葉植物なども置かれている。広い空間に生活感のある豊かな環境を作り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を工夫し、一人ひとりがくつろげる居場所作りの工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや趣味のものを居室戸口のケースに入れていただいたり、馴染みのものを居室内に配置して、居心地良く過ごせる工夫をしています。	居室には大きなクローゼットが取り付けられており、室内は整理されている。馴染みの大小の家具類、小物、鏡台、仏壇、テレビなどが持ち込まれている。壁には家族の写真や暦などが飾ってあり、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は見通しの良い作りになっています。クッションフロアーや長い手すりの設置をしており、伝え歩きのしやすい工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成24年11月23日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、管理者と職員はその理念を共有し日々のケアの実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で地域の現状を知り、あいさつや行事等の中で交流するように努力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々の見学会を行い、認知症の人の理解や支援の方法を理解してもらうよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をカンファレンスで報告し、サービス向上に活かすよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への届け出には直接市役所を訪ね、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の施錠と転落防止の為の非常階段口のドアの施錠以外は常にオープンにしています。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修を受けたものがカンファレンスで発表し学んでいます。また利用者の日々の言動や身体チェックを行っています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修があれば参加し、理解をするように努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約に際しては利用者や家族の理解や納得を図っています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で利用者や家族の代表から意見を受けています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議で出された意見や提案を聞き、反映させています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムを導入し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保するよう努めている。職員は働きながら、介護福祉士の資格を取得する人が多い。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホーム管理者会議、ケアマネジャーの会議、勉強会に参加しネットワーク作りの取り組みをしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必ずホームの見学をしていただき、要望を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話を十分に聞き、質問等には丁寧に答えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望をよく聞き、必要としている支援やサービス利用の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人のできない事や困っていることは援助し、時には教えてもらいながらケアをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連携を取り本人の喜びや望みを叶えるような関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意見を尊重し、馴染みの人の訪問や外出をしていただき関係が途切れないよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が楽しく生活できるように席の配置を工夫したりスムーズに会話ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や施設へのお見舞いや訪問を行い、時には相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話せる方からは希望を聞き困難な場合には家族からの情報や日々のアセスメントをもとに意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を参考にするとともに、センター方式のアセスメントを行い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をもとに、アセスメントしながら現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人が生活していた関係者と話し合い、その中から出た意見やアイデアを反映し、スタッフ全員でプラン作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は細かく記入し、スタッフ全員が利用者の情報について共有しており、それをプラン作成やケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人でサービスを希望する方には外部からの定期的なサービスを受けられるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報誌の活用やボランティアの協力等本人が安全で豊かに生活を楽しむことが出来るよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を大切に、適切な医療を得られるよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師であり、受診に付き添っています。職員は日常的に利用者の健康状態を観察報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者との情報交換をし、相談に努めている。入院先の病院等のカンファレンスに参加又は訪問をし、利用者や家族が安心できる体制を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に事業所のできる事や支援の状態を説明しています。入所後もケアプラン説明時や訪問時にご家族と話し合い、本人の意思が尊重できる方針を共有し、関係者とともに支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに急変時にはどう動けばよいかを常にシミュレーションし、業務にあたっています。職員は応急手当や初期対応の研修を受け、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、利用者にも参加してもらい実行しています。運営推進会議の中で、地域との協力体制を築いています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの認知状態をスタッフが共有し、トイレ誘導や入浴時には特に注意をし、言葉かけや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を日頃から聞き取るようにし、選択できる事を用意し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの楽しみや希望を理解し、ペースに合わせて1日を過ごせるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や身だしなみの情報を知り、その人らしさが出るよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事等には一人ひとりの好みのメニューを入れるようにしています。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューはバランスを考えながら作っています。一人ひとりの食事量、水分量は常にチェックを行い、一定量確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、特変があればすぐに歯科受診しています。定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて布パンツ・紙パンツ・パットなどに使い分けており、排泄チェック表の記録を行い、パターンを把握し、自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維食物の摂取を積極的に行い、散歩や体操等の運動をしています。排便チェックを行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に2回は必ず入浴できるよう調節していますが、本人の希望がある時は、入浴できるようにしています。時には夕方の入浴を設定することもあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内に温度・湿度の調節や寝具の調節を行い、安眠できるようにしています。日中はそれぞれ気に入った場所で休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの費用している薬の内容が書かれている用紙があり、スタッフは把握しています。症状の変化の観察に注意をはらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントから一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等その日の希望に沿って出かけるよう支援に努めています。また、本人の希望を把握し、家族や友人の協力を得て外出や外泊をしています。1階は札幌ドーム・2階は家族との旅行・3階は友人との旅行等を行っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、お金を所持したり、使えるようにしています。買い物希望時は同行し支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。自分で電話ができない人には介助をしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、安心と安全に注意し、居心地の良い場所作りの工夫をしています。季節の花や行事の写真等を飾り、楽しんでもらっています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を工夫し、一人ひとりがくつろげる居場所作りの工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや趣味のものを居室戸口のケースに入れていただいたり、馴染みのものを居室内に配置して、居心地良く過ごせる工夫をしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は見通しの良い作りになっています。クッションフロアや長い手すりの設置をしており、伝え歩きのしやすい工夫をしています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	札幌市厚別区厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成24年11月23日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、管理者と職員はその理念を共有し日々のケアの実践に繋がっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で地域の現状を知り、あいさつや行事等の中で交流するように努力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々の見学会を行い、認知症の人の理解や支援の方法を理解してもらうよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をカンファレンスで報告し、サービス向上に活かすよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への届け出には直接市役所を訪ね、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の施錠と転落防止の為に非常階段口のドアの施錠以外は常にオープンにしています。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修を受けたものがカンファレンスで発表し学んでいます。また利用者の日々の言動や身体チェックを行っています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修があれば参加し、理解をするように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約に際しては利用者や家族の理解や納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で利用者や家族の代表から意見を受けています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議で出された意見や提案を聞き、反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムを導入し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保するよう努めている。職員は働きながら、介護福祉士の資格を取得する人が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホーム管理者会議、ケアマネジャーの会議、勉強会に参加しネットワーク作りの取り組みをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必ずホームの見学をしていただき、要望を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話を十分に聞き、質問等には丁寧に答えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望をよく聞き、必要としている支援やサービス利用の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人のできない事や困っていることは援助し、時には教えてもらいながらケアをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連携を取り本人の喜びや望みを叶えるような関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意見を尊重し、馴染みの人の訪問や外出をしていただき関係が途切れないよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が楽しく生活できるように席の配置を工夫したりスムーズに会話ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や施設へのお見舞いや訪問を行い、時には相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話せる方からは希望を聞き困難な場合には家族からの情報や日々のアセスメントをもとに意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を参考にするとともに、センター方式のアセスメントを行い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をもとに、アセスメントしながら現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人が生活していた関係者と話し合い、その中から出た意見やアイデアを反映し、スタッフ全員でプラン作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は細かく記入し、スタッフ全員が利用者の情報について共有しており、それをプラン作成やケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人でサービスを希望する方には外部からの定期的なサービスを受けられるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報誌の活用やボランティアの協力等本人が安全で豊かに生活を楽しむことが出来るよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を大切に、適切な医療を得られるよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師であり、受診に付き添っています。職員は日常的に利用者の健康状態を観察報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者との情報交換をし、相談に努めている。入院先の病院等のカンファレンスに参加又は訪問をし、利用者や家族が安心できる体制を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に事業所のできる事や支援の状態を説明しています。入所後もケアプラン説明時や訪問時にご家族と話し合い、本人の意思が尊重できる方針を共有し、関係者とともに支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに急変時にはどう動けばよいかを常にシミュレーションし、業務にあたっています。職員は応急手当や初期対応の研修を受け、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、利用者にも参加してもらい実行しています。運営推進会議の中で、地域との協力体制を築いています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの認知状態をスタッフが共有し、トイレ誘導や入浴時には特に注意をし、言葉かけや対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を日頃から聞き取るようにし、選択できる事を用意し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの楽しみや希望を理解し、ペースに合わせて1日を過ごせるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装や身だしなみの情報を知り、その人らしさが出るよう支援しています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事等には一人ひとりの好みのメニューを入れるようにしています。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューはバランスを考えながら作っています。一人ひとりの食事量、水分量は常にチェックを行い、一定量確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、特変があればすぐに歯科受診しています。定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて布パンツ・紙パンツ・パットなどに使い分けており、排泄チェック表の記録を行い、パターンを把握し、自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維食物の摂取を積極的に行い、散歩や体操等の運動をしています。排便チェックを行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に2回は必ず入浴できるよう調節していますが、本人の希望がある時は、入浴できるようにしています。時には夕方の入浴を設定することもあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内に温度・湿度の調節や寝具の調節を行い、安眠できるようにしています。日中はそれぞれ気に入った場所で休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの費用している薬の内容が書かれている用紙があり、スタッフは把握しています。症状の変化の観察に注意をはらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメントから一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。		

グループホーム 春桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等その日の希望に沿って出かけるよう支援に努めています。また、本人の希望を把握し、家族や友人の協力を得て外出や外泊をしています。1階は札幌ドーム・2階は家族との旅行・3階は友人との旅行等を行っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、お金を所持したり、使えるようにしています。買い物希望時は同行し支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。自分で電話ができない人には介助をしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、安心と安全に注意し、居心地の良い場所作りの工夫をしています。季節の花や行事の写真等を飾り、楽しんでもらっています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を工夫し、一人ひとりがくつろげる居場所作りの工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや趣味のものを居室戸口のケースに入れていただいたり、馴染みのものを居室内に配置して、居心地良く過ごせる工夫をしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は見通しの良い作りになっています。クッションフロアや長い手すりの設置をしており、伝え歩きのしやすい工夫をしています。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム 春桜

作成日：平成 24年 12月 28日

市町村受理日：平成 25年 3月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での計画的なテーマ設定や外部評価の話し合い、議事録の送付等が不十分である。	運営推進会議のテーマの計画的な設定および、外部評価結果の話し合いを行う。多くの家族が参加できるようにする。	運営推進会議の案内と議事録を家族に送付し、参加の呼びかけを行う。テーマの計画的な設定や内容を協議する。	12ヵ月
2	6	身体拘束に関する勉強会の取り組みが不十分である。	身体拘束についての研修会に参加し、勉強会や、事例検討会を行う。	身体拘束の外部研修参加と内部研修を行い、事例検討やマニュアルに沿った勉強会を行う。	12ヵ月
3	10	家族に様子を伝えるホーム便りが、ユニットごとの発行回数にばらつきがある。家族アンケートの実施がない。	全ユニットでお便りの定期発行を行う。家族アンケートを行い、運営に役立て、結果の送付を行う。	ホーム便りを定期的に発行するよう内容を工夫する。家族アンケートを行い、意見を運営に反映するよう取り組み、結果の送付を行う。	12ヵ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。